

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072200381		
法人名	社会福祉法人 宏志会		
事業所名	きらく荘 グループホーム		
所在地	〒838-0022 福岡県朝倉市城859番地 (電話)0946-21-5220		
自己評価作成日	令和元年11月12日	評価結果確定日	令和2年2月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな環境の中、四季折々の木々の彩りや動物の鳴き声、田園風景を感じながら今までの生活が送れます。また、地域の野菜や果物もあり、季節を感じて頂けるよう手作りおやつ時に切ったり、調理して頂いています。同敷地内にある多床室特養、ユニット特養、通所介護、ケアプランサービス、小規模多機能ホーム、地域包括支援センターとの協力、連携体制が取れ、情報交換をすると共に他の事業所を利用されている知人、親類の方との交流もできています。グループホーム行事活動以外にも、他事業所の行事、催しなどにも積極的に参加する事で、気分転換や楽しみが増えています。また、地域の方の訪問や慰問はもちろん、地域の行事にも積極的に出向いて馴染みの関係になっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和元年12月11日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、広々とした田園に囲まれ、坂を上がった敷地の奥に、法人の他施設と併設して建てられ、鳥のさえずりが聞こえ、自然豊かな環境の中にある。周囲の田園地域には高齢者の方が多く生活をしており、数年前の災害時には、避難された方の受け入れを法人全体で行った。事業所としても地域の行事に招かれ利用者と参加したり、事業所の行事に地域の方が参加するなど、地域との関わりを大切にし、地域福祉の充実を目指している。法人内の他施設間とは、協力体制ができており、入所されている利用者が安心安全で幸せな生活が継続できるように支援を行っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で法人理念・グループホーム理念を理解して、朝礼・会議時に唱和を行っている。施設の方針が決まり、グループホーム内で実行できるよう計画を立て実施している。	事業所の理念にある「幸せな老後生活」「施設福祉と在宅福祉の相乗効果により地域福祉の充実」を目指し、毎朝の朝礼や、会議が開催されるごとに唱和を行っている。毎年、法人としても目標を掲げ、事業所として課題を抽出して、対応策を検討し実施し、評価を行っている。管理者職員は理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域であるお祭りや敬老会、運動会等に招待を受け、地域の方を中心に利用者様と一緒に出かけている。施設からも地域の施設(小学校、コミュニティー)など、また、通勤道や近辺の清掃を年間計画にて行っている。	法人主体で計画している小学校の草取り、道路のゴミ拾い等地域の清掃活動に参加している。すもう大会やホタル祭り、敬老会、運動会に招待され、参加している。地域の方が相談に来所することや、保育園の慰問、小学校の体験学習、中学校の福祉体験など地域の一員として日常的に交流をしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門の強みを活かして、各事業所や病院・ご家族などの相談を受けたり、認知症の方の対応方法などのアドバイスも行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能ホームと合同で実施、利用者様、職員が交代で参加している。事業所の取り組んだ内容の発表や季節に応じたの注意事項の発表を行い、地域の民生委員、老人会などの代表の方の意見を活かしている。	運営推進会議は2か月に1回開催をして利用者、家族、行政職員、地域の民生委員、老人会代表の参加があり、現状サービスについての報告や、評価の取り組み報告を行っている。会議では、地域の情報を教えてもらうことや、事業所のレクリエーション資料を提供するなど、そこでの意見を事業所のサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所・専門機関へ問題点などに関して直接相談を行い、指導、助言を受けている。	行政との連携は、年に1回の集団指導時や、市役所の窓口に出向いての相談、電話等での相談報告を行い、日頃から協力体制が取れるよう関係を作っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部署内にて身体拘束についての勉強会を実施している。また、2ヶ月に1回部署内の会議にて身体拘束についての現状・課題について検討・確認をしている。日中は出入り口の施錠はしていない。夜間帯のみ防犯の為、施錠を行っている。見守りの中利用者様は自由に出入りされる。	日中、居室玄関は施錠はしていない。チャイム、センサー等の設置はなく、中庭にも自由に出入りが行えるようになっている。外出傾向がある利用者には、職員が見守りや付き添いを行い、同法人他施設職員の協力や地域の支援体制もできている。身体拘束防止の勉強会等を2か月に1回行い拘束をしないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の全体研修で研修を受けている。参加されていない職員に対しても資料に目を通してもらい、申し送りをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方はいません。パンフレットを準備して職員へ見てもらっている。部署会議でも勉強会を予定している。	日常生活自立支援事業、成年後見制度のパンフレットを準備している。権利擁護に関する勉強会を行い、管理者や職員が参加して、学ぶ機会を得ている。制度について、利用者・家族には、特に説明していない。	権利擁護に関する制度について、利用者・家族に、説明を行っていただくことを期待する。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	更新時など説明を行い、承諾をもらっている。日頃から、ご家族との関わりを持ち、いつでも相談できる関係作りに努めている。ご家族の疑問や不安を取り除けるよう職員から面会時や日頃から連絡をいれている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望、意見は日ごろの会話から聞き取りを行っているが、3ヶ月に1回利用者懇談会の開催して、意見をきいている。家族代表が参加する運営推進会議や家族会を実施、その中での心配な事や要望の聞き取りをグループホーム運営に反映している。日ごろの家族面会でもコミュニケーションに努めている。	利用者家族は運営推進会議に参加するとともに、3ヵ月に1回の利用者懇談会・年1回の家族会を開催して、要望や意見を聴きとっている。家族の来所時にも意見等を聞くように声かけを行っている。第三者相談窓口に関するポスターは掲示しており、入り口に資料を設置している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月部署会議を行い、品質計画に沿って実施した報告を行っている。また、利用者様の状況、ケアに対して検討や情報の共有も行い、業務の見直しなど運営に対しても意見交換ができています。年に2回個別面談を設けて、職員の考えや意見を聞いている。	全職員で自己評価への取り組みを行い、管理者がまとめている。職員が意見を出しやすいように管理者はまんべんなく声かけを日々行い、年2回の個人面談でも気づきや意見を聴きとっている。法人の方針で異動はあるが引き継ぎの期間を十分に取れるような体制になっている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の悩みや人間関係などトラブルになる前に傾聴し、その都度、話し合いや面談を行っている。日頃の職員の表情等も見ながら随時声掛けしている。年2回の人事考課制度の為の個別面談もある。職員が働きやすいように、業務の見直しや得意分野を活かしていけるような環境作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用に関しては法人採用規定により、特に年齢や性別は制限されていない。採用後は経験や能力に応じての研修を実施している。部署ごとに指導者をつけて、個々に応じた個別指導を行い、職員の長所を活かしながら楽しく仕事ができるようにしている。</p>	<p>職員採用に関しては、法人が行い、性別、年齢等を理由に採用から排除するようなことはしていない。家庭の事情を考慮した勤務時間の設定や調整を行い、定年後も、希望により働くことができる、働きやすい環境を作っている。新人職員に対しても、個々に合ったペースで新人研修を行い、安心して働ける環境づくりを行っている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>ホームページ、新聞での写真掲載については、契約時にご家族に同意書を頂いている。また、法人の全体研修で、プライバシーに関する勉強会を予定している。日頃より、個人情報の取り扱いについて、職員に十分注意をするよう声掛けしている。</p>	<p>人権教育は年間計画を作り、法人研修と事業所研修を行い、全職員が参加できるようにしている。管理者・職員は、利用者の人権が守られるように常に気を配り、お互いに注意をしあえる関係づくりに取り組んでいる。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>力量と知識向上の為、外部研修や部署会議での勉強会の講師をしてもらい、研修後は研修を活かした取り組みを行っている。また、新職員の指導担当についても、共に成長していけるような取り組みをしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年4回、事業者協議会のグループホーム部会の会議、勉強会に参加してサービスの向上を行っている。また、自部署の会議で報告を行い、サービスの質の向上と情報共有をはかっている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日頃よりご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、ご家族やご利用者様が困っている時や要望に傾聴し、随時、安心して頂けるよう話し合い・対応をしていった。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の方が困っている事に対して、真摯に受け止め、いつでも相談できるよう日頃からコミュニケーションを取り、少しでも解決できるよう一緒に考えて対応している。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の訴えや体調に伴った医療に関して機関に相談、付き添いを行った。介護度が上がり特養施設の説明・申し込みの声掛けを行った。また、利用者様の負担軽減の為に一部の方、往診へと切り替えた。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度が重くなってきているが、負担が係らないぐらいに、個々の出来る事をみつけていき、今までの暮らしの継続出来るよう共に掃除や洗濯物干しなどを行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の高齢化、体調変化に伴って家族との連携が多くなってきている。家族の今までされてきたことに支援しながら、相談しやすいように声をかけていっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域主催の行事には、利用者様を招待していただき、地域との関係性は良好である。時折、知人の方が来荘した際には、部署にて演奏会を開催し、他事業所の方も招いて交流を持っている。	利用者の馴染みの人や場については、契約時に家族から聞き取りを行っている。地域行事の参加を通じて、地元の知人と会って話をする事ができる機会になっている。知人の方が利用者のために、面会時に演奏会をしてくれたり、難聴の方が電話を使用する時、職員が間に入るなど、これまでの関係が継続できるよう支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は自由に活動できるようにユニット内を自由に行き来してあり、会話しながら洗濯物畳みをしたり、散歩や作品づくりなど活動の支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の事業所に入所・病院に入院されているご利用者様に対して、面会・お見舞いに行き、その後の経過や家族に挨拶をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いや意向を職員が聞き取り、その場で出来ることは連携を取り実施、意思疎通困難な方は、表情や反応、生活状況変化などから把握したり、ご家族にも相談・検討後実施している。	各利用者につき、ファイルが3冊用意されている。その中の一つの「個別日課チェック」というファイルに、利用者や家族の意向や相談事の内容と、それらへの対応・経過が記されている。それに加えて、日々の変化を記している「申し送りノート」、「介護日誌」にも目を通すことで、職員は利用者個々の現在についての情報を共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前にご家族から聞き取りを行い、利用者様の生活歴や今までされていた仕事などの留意点を、各職員が事前に把握して入所後も不安なく話が合い、生活の継続ができるように取り組んでいる。また、会話の中から知らない情報などが出てきたら、職員間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方に対しては、個別チェック表を活用して情報把握出来るようにしている。また、朝・昼・夕と職員間で申し送りを細目に行う事によって、利用者様の状況報告や支援方法を個別対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や利用者様との会話の中から意見や要望の聞き取りを行い、介護計画見直しや状況変化時に定期的にカンファレンスを行い、多職種の意見も踏まえた上でプランに反映している。定期受診の際は、主治医に上申して参考意見ををいただいている。	介護計画の目標に添って、担当者がモニタリングしたものに、ケアマネジャーが主治医から聴き取りした医療面での意見や方針を加えて整理し、担当者会議で本人・家族を含めた関係者で話し合っ、次期介護計画としている。介護計画の期間は一定ではなく、利用者個々の状況や目標に応じて設定している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画実施の状況や詳細事項を記録に残している。実施後の経過や留意点、改善点など検討・実施して、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族の要望に対して、その都度、早期に対応出来るよう検討している。また、要望が既存のサービスでは困難な場合は、ご家族に相談して協力体制をとれている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	荘内の夏祭り、文化祭、運動会などに保育所、小学校、中学校、地域の方の催し物、駐在所、消防団などの協力がある。こちらからも行事時の時に、料理の下準備を手伝いをしたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に主治医の確認をし、家族の方で対応ができる方は、馴染みの医師による継続的な医療をご家族に依頼している。協力医院がある事も伝えている。重度化に伴って、ご利用者の状態をみながら、ご家族に相談し、往診の支援も検討した。	入所まで利用者を診ておられ、利用者や家族とも好い関係を築いてこられた医師を、入所後もかかりつけ医とすることが望ましい、というホームの基本的姿勢を、契約の際に説明している。家族がどうしても関われない際には、受診同行を代行している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルチェック、検温・再検査を行い、各時間帯の申し送り時にご利用者の状態報告を行い、体調変化に気づいた時点で、ご家族に連絡・説明し、情報共有して早期の受診対応に繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたときは家族に付き添いADL、生活状況などの説明を行い、看護添書を持参している。定期的に面会を行い、電話での情報ももらっている。退院が決まった時点で早急に日程調整をして、迎えに行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の現在の状況を説明し、重度化や終末期について説明・指針に同意書をとっている。また、生活していく中で、状況をみながら、随時、今後についての支援の方向性について、ご家族や医師と話し合いを行っている。	ホームの方針については、入所説明時に、所定の指針に基づいて説明し、同意を得ている。また、入所後の利用者の状態の変化、利用者家族の思いの変化に応じて、随時、話し合いを行い、意向を確認し合っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自部署にて、定期的の日勤帯・夜間帯で想定できる事例をもちいて、緊急時のシュミレーションの勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署から指導者が来て、年2回、昼夜想定 の火災や水害の避難訓練を行っている。運 営推進会議にて地域の方にも避難訓練の参 加を呼びかけている。各事業所との合同で 連携を取り、避難経路など確認をしていっ た。ご利用者様も職員も訓練をする事で、 意識が高まった。1月には防犯訓練も予定し ている。	ハザードマップ上は、土砂災害危険区域に あるため、土砂災害想定 の避難訓練も行って いる。火災想定 の避難訓練では、実際の 場面で適切に対応できるよ う、出火想定場 所に応じて避難場所を変 えている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の居室への思いを尊重して、入室 時、掃除の際は本人に入室することを伝え ている。人格を尊重し、自尊心に配慮した ケアに取り組んでいる。個人情報の取り扱 いやプライバシーに対して、日頃から朝礼 時などで守秘義務の周知徹底を促してい る。また、プライバシーの保護の勉強会を 予定している。	自室やトイレ扉のガラスは、すりガラスを 使用しているため、外から中の様子は窺 えない。利用者家族との面談は当該利用 者の自室や相談室で行っている。排泄チ ェック表は厨房カウンター内に保管して いるため、人目に触れることはない。プ ライバシーへ配慮した入浴支援を行って いる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話の中で、気にされて いる事や要望に対して相談があり、その 都度、どのように支援できるのか検討し 、ご家族に相談・依頼をしたり、買い物 に一緒に出掛けて食べ物を購入したりし ている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその時の気分や体調に合 わせて、ご本人様に確認しながら個別 支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るように、衣 替えの時はご家族や職員と一緒に 行っている。外出時や入浴時、ご 利用者様の好みに合わせて共に選 んだりしている。散髪時ご自身 で希望の髪の長さを伝えたり している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事の準備でつぎ分け、片付け などできる方、時間がある方にお願 いして一緒にしている。時折、頂 き物の食材で炊き込みご飯を出 している事もある。月2回のお やつ作りには、役割分担しながら 作ってみんなでおいしく食べて いる。	食事中は食事に集中して、食事を 楽しく安全に摂ることができるよ うTVは消している。献立は法人 で作っているが、ご飯はホーム で炊いているので、変わりご 飯にしたり、時には副菜を1品 付けたりしている。盛り付けは 利用者様にお願している。汁 椀以外は陶器の食器を使用し ている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量の記録は記入しており、お茶は食事の前後に飲んで頂いている。お茶を摂られない方に対しては、好みの飲み物を食事と一緒に出している。食思が低下している方に対して、ご家族依頼して漬物や佃煮を持ってきてもらったり、食事環境や形態等の工夫をして支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを個別で行っている。歯科医師を希望される時は、訪問歯科を利用され説明を受け対応している。自分のできる方は声掛け・見守りを行って確認している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行かれる方は移動などの足取りを観察し、ご本人様の自尊心は傷つかないよう配慮しつつ排便の確認をしている。介助が必要な方も定期的なトイレへの声掛けしタイミングを見て介助している。	基本、職員と一緒にトイレに入ることはいないが、トイレに入って30分以上出てこない際には、トイレ内を確認している。リハビリパンツや尿取りパッド等の排泄支援用品は個別に、随時利用者の状況に合わせて適切なものを使用している。トイレ内の照明は人感センサーに対応して点滅する。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をとり、個々の排便のパターンを把握し、薬の服用だけでなく、ご家族にも協力してもらい、牛乳やヨーグルト・ヤクルト等を食事と一緒に提供している。運動やトイレ時にマッサージをしてお腹の動きを促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様の入浴希望の回数に応じて行っている。ゆっくりと入ってもらえるように個別の入浴で対応している。季節感を感じられる冬至のゆず風呂が好評である。入浴拒否がある場合は、清拭または、次の日に声掛けしている。	お風呂は毎日沸かしている。週3回の入浴を目標に支援している。また、受診に合わせた入浴支援も行っている。浴室が広いので、冬期は十分に浴室が暖まったのを確認して、入浴に誘っている。入浴拒否が続く際には、家族が来所して入浴を促して貰ったり、入浴を促す電話をして貰ったり等の協力を依頼している。ゆず湯など、季節感を演出した入浴も行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体力の違いもあるので、個々に応じて、テレビをゆっくりみて休まれる方もいるので時間をみて声掛けをしている。昼夜逆転にならないように適度な睡眠と昼間の活動を促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方箋はファイルごとにまとめて確認できるようにしている。飲み忘れ、誤薬がないように確認を行い、薬の飲み込みが難しくなってきた方に対して個別に薬剤師さんに来て頂いて提供の仕方を指導してもらった。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣や生活歴を把握した上で、個別的な役割や余暇活動を行っている。毎日新聞を読まれたり、日付の変更や食事の時に漬物やヤクルトなど、お好みのものを出している。ご自身で自動販売機に飲み物を買に行かされている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつや買い物に聞き取りして、一緒に買い物に出かけている。懇談会での要望も踏まえた上で、季節ごとにドライブを計画し、季節感を味わってもらっている。個別に要望がある際はご家族と相談して、買い物支援をしている。	自然に恵まれている環境であり、天候に応じて週1~3日程度散歩している。季節の花々見物や地域・県下の名高い行事、風物詩見物の目的で、ホーム独自で出かけた時、法人行事に加わったり、法人内他事業所と合同で出かけるなどして、月に2~3回ドライブに出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方に関しては、ご家族の了解のもと管理してもらっている。買い物に出かけ時は、ご本人様が支払える様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいとの希望を聞き、取次を行って話してもらいます。絵手紙を個別で描いて、家族や子供、面会に来られて方に定期的に出すようにしている。絵手紙が困難な場合は、写真を撮り、コメントを書ってもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂の壁に、季節が感じられる壁画や個別の飾りをしている。居室、居間、食堂は明るく、換気は行っているが空気清浄器を設置している。トイレも広く車いす利用もできる。浴室も入浴前から温度調整を行っている。	冬期には食堂や廊下に加湿器や空気清浄機を設置している。また、霧吹きやモップを掛けたりして空気の乾燥を抑えている。食堂でTVの報道番組を流すことで、利用者が社会動向や季節の変化に接する機会としている。食堂に利用者が集まっている際には、食堂近くのトイレには案内しないよう気をつけている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮して、食事のテーブルやソファの配置を考えて、話しやすい環境・過ごしやすい居心地の良い空間作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されたタンスや自分の好みの物を置き、アルバムや家族との写真、孫さんの写真を置いている。洗面台では使い慣れた私物を置いたり、ご本人様が居心地よく過ごせるようにしている。	居室内にはベッド、タンス、洗面台、エアコンが標準設備として設えてある。室内には排泄臭がなく、清潔が保たれている。各居室は、利用者が思い思いに、思い出の品を持ち込んでいるため、それぞれに済む人の個性が感じられる空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングで食事・話、テレビなど見た後に自分で部屋やトイレに行ったり、隣のユニットへの行ききし動かれている。テーブル拭きやお盆拭き、寝具交換なども一緒にしている。トイレも車いすやシルバーカーがゆっくり入れる広さで、必要な方は介助を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で法人理念・グループホーム理念を理解して、朝礼・会議時に唱和を行っている。施設の方針が決まり、グループホーム内で実行できるよう計画を立て実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域であるお祭りや敬老会、運動会等に招待を受け、地域の方を中心に利用者様と一緒に出かけている。施設からも地域の施設（小学校、コミュニティー）など、また、通勤道や近辺の清掃を年間計画にて行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門の強みを活かして、各事業所や病院・ご家族などの相談を受けたり、認知症の方の対応方法などのアドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能ホームと合同で実施、利用者様、職員が交代で参加している。事業所の取り組んだ内容の発表や季節に応じたの注意事項の発表を行い、地域の民生委員、老人会などの代表の方の意見を活かしている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所・専門機関へ問題点などに関して直接相談を行い、指導、助言を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部署内にて身体拘束についての勉強会を実施している。また、2ヶ月に1回部署内の会議にて身体拘束についての現状・課題について検討・確認をしている。日中は出入り口の施錠はしていない。夜間帯のみ防犯の為、施錠を行っている。見守りの中利用者様は自由に出入りされる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の全体研修で研修を受けている。参加されていない職員に対しても資料に目を通してもらい、申し送りをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の利用者様が制度の手続きをされている。パンフレットを準備して職員へ見てもらっている。部署会議でも勉強会を予定している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に料金の確認や必要なものなど、ご家族の質問に事前打ち合わせや随時、連絡をとり、ご家族の質問に答えていった、更新時など説明を行い、承諾をもらっている。日頃から細目にご家族と連絡を取り、報告・確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望、意見は日ごろの会話から聞き取りを行っているが、3ヶ月に1回利用者懇談会の開催して、意見をきいている。家族代表が参加する運営推進会議や家族会を実施、その中での心配な事や要望の聞き取りをグループホーム運営に反映している。日ごろの家族面会でもコミュニケーションに努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月部署会議を行い、品質計画に沿って実施した報告を行っている。また、利用者様の状況、ケアに対して検討や情報の共有も行い、業務の見直しなど運営に対しても意見交換ができています。年に2回個別面談を設けて、職員の考えや意見を聞いている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の悩みや人間関係などトラブルになる前に傾聴し、その都度、話し合いや面談を行っている。日頃の職員の表情等も見ながら随時声掛けしている。年2回の人事考課制度の為の個別面談もある。職員が働きやすいように、業務の見直しや得意分野を活かしていけるような環境作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用に関しては法人採用規定により、特に年齢や性別は制限されていない。採用後は経験や能力に応じた研修を実施している。部署ごとに指導者をつけて、個々に応じた個別指導を行い、職員の長所を活かしながら楽しく仕事ができるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームページ、新聞での写真掲載については、契約時にご家族に同意書を頂いている。また、法人の全体研修で、プライバシーに関する勉強会を予定している。日頃より、個人情報の取り扱いについて、職員に十分注意をするよう声掛けしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量と知識向上の為、外部研修や部署会議での勉強会の講師をしてもらい、研修後は研修を活かした取り組みを行っている。また、新職員の指導担当についてもらい、共に成長していけるような取り組みをしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回、事業者協会のグループホーム部会の会議、勉強会に参加してサービスの向上を行っている。また、自部署の会議で報告を行い、サービスの質の向上と情報共有をはかっている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃よりご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、ご利用者様が困っている時や要望に傾聴し、ご家族に相談したり、随時、安心して頂けるよう話し合い・対応をしていった。また、ご家族に対しても細目に状況の連絡や説明をしていった。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向などに対して入所時に聞き取りを行い、細目に連絡・報告を行い、要望や意向に沿うよう日頃からコミュニケーションに努めた。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の体調に伴った医療に関して機関に相談、付き添い・対応を行った。介護度が上がり特養施設の説明・申し込みの声掛けを行った。また、利用者様の負担軽減の為に一部の方、往診へと切り替えた。在宅生活の継続に近い状況を作る為に支援していった。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の継続が出来るよう個人の訴えや活動を行えるように、個別対応している。おやつ作りでは、ご利用者様から分からない事は教えて頂きながら、職員も学ばせてもらっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況変化に対して、家族に報告できるような関係にあり、体調不良時や依頼に対しても、相談しやすい関係が築けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域主催の行事には、利用者様を招待していただき、地域との関係性は良好である。施設内の他事業所利用の知人、友人を訪ねたり、交流したりとかかわりを持っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の中には、想いを上手に表わせない方もいるので、想いをくみ取りながら、職員がご利用者様の間に入って、自由に過ぎて頂けるよう支援をしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の事業所に入所・病院に入院されているご利用者様に対して、面会・お見舞いに行き、その後の経過や家族に挨拶をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしく暮らして頂けるように、一人ひとりの想いをくみ取りながら、意向に対して聞き取りを行い、職員間での情報共有、連携して検討。対応を行っていった。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前にご家族から聞き取りを行い、利用者様の生活歴や今までされていた仕事などの留意点を、各職員が事前に把握して入所後も不安なく話が合い、生活の継続ができるように取り組んでいる。また、会話の中から知らない情報などが出てきたら、職員間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方に対しては、個別チェック表を活用して情報把握出来るようにしている。また、朝・昼・夕と職員間で申し送りを細目に行う事によって、利用者様の状況報告や支援方法を個別対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や利用者様との会話の中から意見や要望の聞き取りを行い、介護計画見直しや状況変化時に定期的にカンファレンスを行い、多職種の意見も踏まえた上でプランに反映している。定期受診の際は、主治医に上申して参考意見ををいただいている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画実施の状況や詳細事項を記録に残している。実施後の経過や留意点、改善点など検討・実施して、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族の要望に対して、その都度、早期に対応出来るよう検討している。また、要望が既存のサービスでは困難な場合は、ご家族に相談して協力体制をとれている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	荘内の夏祭り、文化祭、運動会などに保育所、小学校、中学校、地域の方の催し物、駐在所、消防団などの協力がある。こちらからも行事時の時に、料理の下準備を手伝いをしたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に主治医の確認をし、家族の方で対応ができる方は、馴染みの医師による継続的な医療をご家族に依頼している。協力医院がある事も伝えている。重度化に伴って、ご利用者様の状態をみながら、ご家族に相談し、往診の支援も検討した。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルチェック、検温・再検査を行い、各時間帯の申し送り時にご利用者様の状態報告を行い、体調変化に気づいた時点で、ご家族に連絡・説明し、情報共有して早期の受診対応に繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたときは家族に付き添いADL、生活状況などの説明を行い、看護添書を持参している。定期的に面会を行い、電話での情報ももらっている。退院が決まった時点で早急に日程調整をして、迎えに行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の現在の状況を説明し、重度化や終末期について説明・指針に同意書をとっている。また、生活していく中で、状況をみながら、随時、今後についての支援の方向性について、ご家族や医師と話し合いを行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自部署にて、定期的の日勤帯・夜間帯で想定できる事例をもちいて、緊急時のシミュレーションの勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署から指導者が来て、年2回、昼夜想定 の火災や水害の避難訓練を行っている。運 営推進会議にて地域の方にも避難訓練の参 加を呼びかけている。各事業所との合同で 連携を取り、避難経路など確認をしていっ た。ご利用者様も職員も訓練をする事で、 意識が高まった。1月には防犯訓練も予定し ている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の居室への思いを尊重して、入室 時、掃除の際は本人に入室することを伝え ている。人格を尊重し、自尊心に配慮した ケアに取り組んでいる。個人情報の取り扱 いやプライバシーに対して、日頃から朝礼 時などで守秘義務の周知徹底を促してい る。また、プライバシーの保護の勉強会を 予定している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話の中で、気にされてい る事や要望に対して相談があり、その都 度、どのように支援できるのか検討し、ご 家族に相談・依頼をしたり、買い物一緒 に出掛けて食べ物を購入したりしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその時々気分や要望に対し て、実現できるよう時間の工夫や職員間で 申し送りをして、ご本人様のペースに寄り 添うよう支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るように、衣替え の時はご家族や職員と一緒にやっている。 外出時や入浴時、ご利用者様の好みに合 わせて共に選んだり、髪を結ばれたり、ア クセサリーを身に着けられている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事の準備でつぎ分け、片付けな どできる方、時間がある方をお願いして一 緒にしている。時折、頂き物の食材で炊き 込みご飯を出している事もある。月2回 のおやつ作りには、役割分担しながら作 ってみんなでおいしく食べている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量の記録を記録し、お茶は食事の前後に飲んでもらっている。飲み込みが悪い方もいるので、飲み込みを確認しながら形態の検討し、職員近くで付き添い、飲み込み確認をしている。月1回体重測定をしており、体重の増減の確認をして、今後の支援方法を検討している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを個別で行っている。歯科医師を希望される時は、訪問歯科を利用され説明を受け対応している。自分でできる方は声掛け・見守りを行って確認している。嚥下が悪いご利用者様には、ブラッシングの後に口腔綿花にて清潔保持している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行かれる方は移動などの足取りを観察し、ご本人様の自尊心は傷つかないように配慮しつつ排便の確認をしている。介助が必要な方も定期的なトイレへの声掛けしタイミングを見て介助している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をとり、個々の排便のパターンを把握し、薬の服用だけでなく、ご家族にも協力してもらい、牛乳やヨーグルト等を食事と一緒に提供している。運動やトイレ時にマッサージをしてお腹の動きを促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様の入浴希望の回数や個別の入浴対応でゆっくり入ってもらっている。ご利用者様によっては介助の職員も考慮する時もあり、拒否されるときはゆっくり話をきき、入浴してもらっている。拒否がある方には、足浴や毎日入浴の声掛けを促している。季節感を感じられる冬至のゆず風呂が好評である。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は周囲の方とお話をしたり、テレビ鑑賞後、ご自身のペースで時間をみて休まれていきます。起床時間もご自身の時間帯で起きて来られるが、夜間に不眠の場合は、ご本人様に声掛けして起床の確認をし、臨機応変に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方箋はファイルごとにまとめて確認できるようにしている。飲み忘れ、誤薬がないように確認を行っている。服薬の拒否がある方や理解が困難な方に対しては、ご家族・主治医・薬剤師に相談して、工夫している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、リビングで歌番組を鑑賞されたり、部屋にゆっくりと休まれたり、隣のユニットで過ごされたりと自由に出来る環境にしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつや買い物に聞き取りして、一緒に買い物に出かけている。懇談会での要望も踏まえた上で、季節ごとにドライブを計画し、季節感を味わってもらっている。職員だけでは対応出来ない時はご家族に相談対応してもらっている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方に関しては、ご家族の了解のもと管理してもらっている。買い物があった時は、一緒に買い物に出かけている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいとの要望あった際は、取次を行って話してもらいます。絵手紙を個別で描いて、家族や子供、面会に来られて方に定期的に出すようにしている。絵手紙が困難な場合は、写真を撮り、コメントを書いてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂の壁に、季節が感じられる壁画や個別の飾りをしている。居室、居間、食堂は明るく、換気は行っているが空気清浄器を設置している。トイレも広く車いす利用もできる。浴室も入浴前から温度調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮して、食事のテーブルやソファの配置を考えて、話しやすい環境・過ごしやすい居心地の良い空間作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好みの物を置き、アルバムや家族との写真、孫さんの写真を置いている。観葉植物を置いたり、洗面台では使い慣れた私物を置いたりご本人様が居心地よく過ごせるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングで食事・話、テレビなど見た後に自分で部屋やトイレに行ったり、隣のユニットへの行ききし動かれている。テーブル拭きやお盆拭き、部屋の掃除なども一緒に行っている。トイレも車いすやシルバーカーがゆっくり入れる広さで、必要な方は介助を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		